



とやませいきょう

2022年度環境アンケート報告書



世界的な規模でプラスチック問題が話題となっており、私たちの暮らしに大きな関りがあります。とやま生協ではSDGsの活動を組合員と共に進めていますが、特に参加しやすいリサイクル活動について組合員の意識調査と動向を調査しました。

目的

- ① アンケートを通してリサイクルの取り組みを紹介し、リサイクル参加につなげます。
- ② 組合員のプラスチック問題に対する行動を把握します。
- ③ SDGs、エコ消費の認知度を把握します。

作成者 組合員活動支援グループ
作成日 2023年3月

実施期間・・・2023年1月30日（月）～2月17日（金）

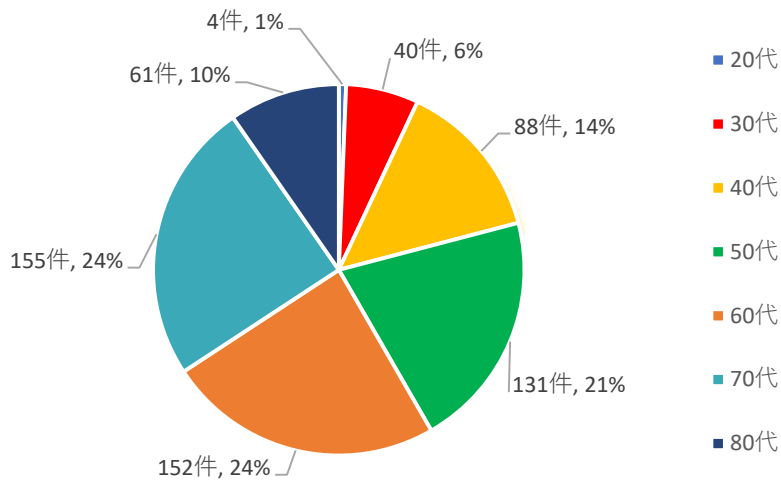
配布枚数・・・1,000枚

対象者・・・過去実施者を除く、現在、生協を利用頂いている
組合員1,000名をランダムに抽出

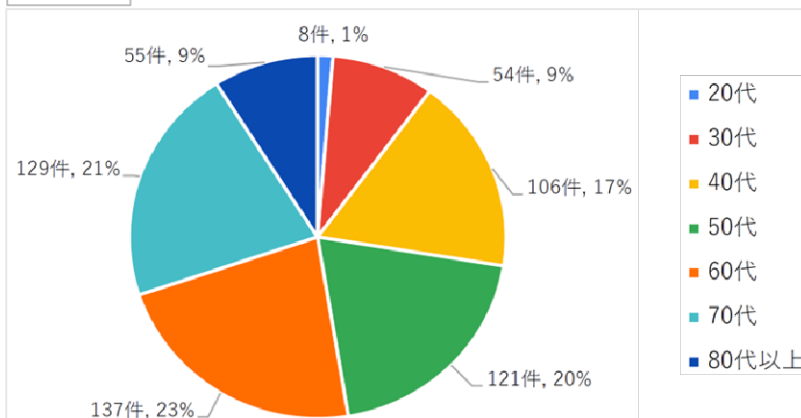
回収率・・・64%（648/1,000枚）

質問1.組合員さんについてお聞きします。

年代 回答631件（全回答647件のうち未回答16件）

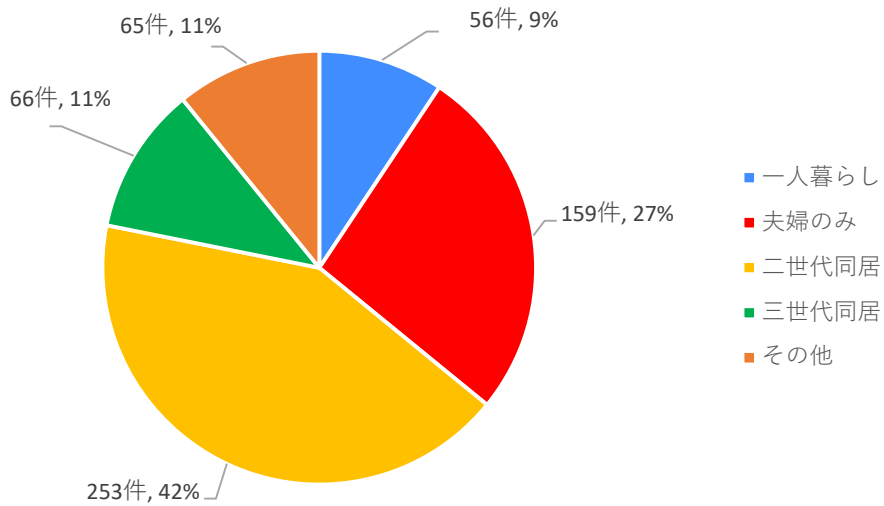


昨年 回答618件（全回答618件のうち未回答8件）

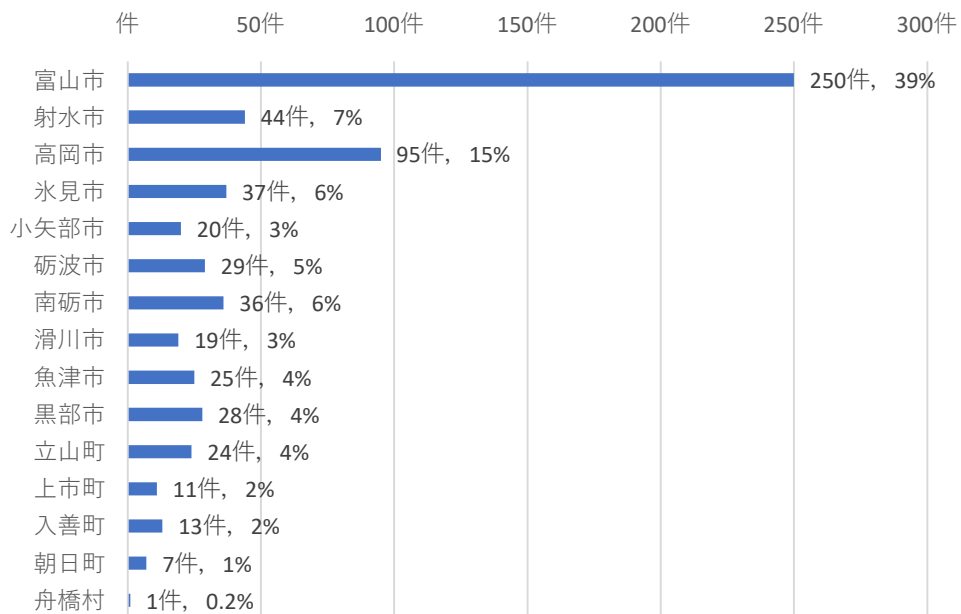


家族構成

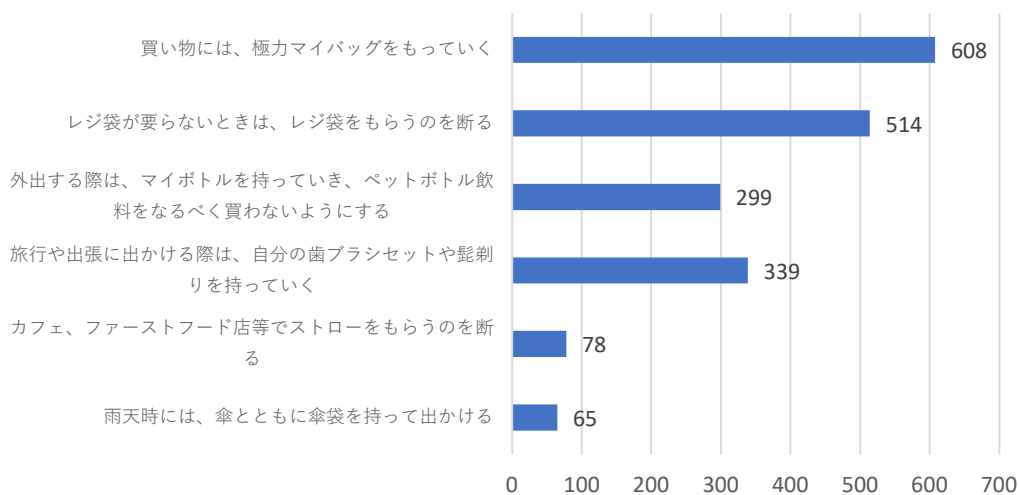
回答599件（全回答647件のうち未回答48件）



お住いの市区町村

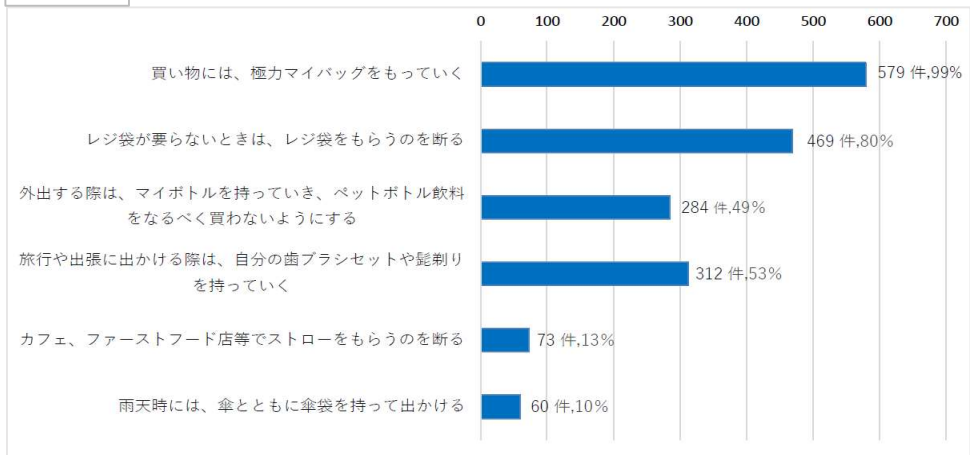


質問2.「プラスチックごみの削減の取組み」のうち、普段行っているものに○をつけてください。（複数可）



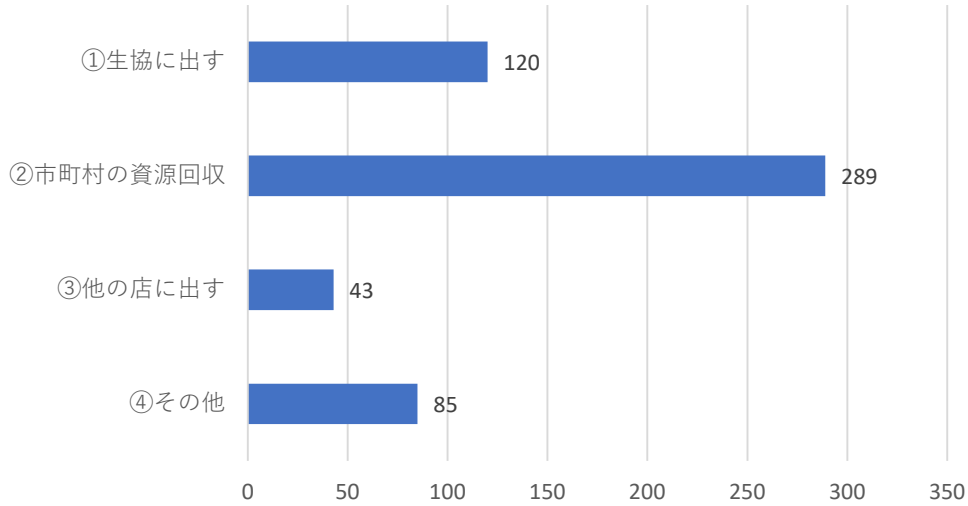
富山県では、全県単位では最も早く、2008年4月からスーパー等でのレジ袋無料配布廃止をスタートしています。そのようなことからマイバッグの持参、また、レジ袋をもらうのを断るなどのプラスチックごみ削減の取組みが日常化していることが伺えます。

昨年

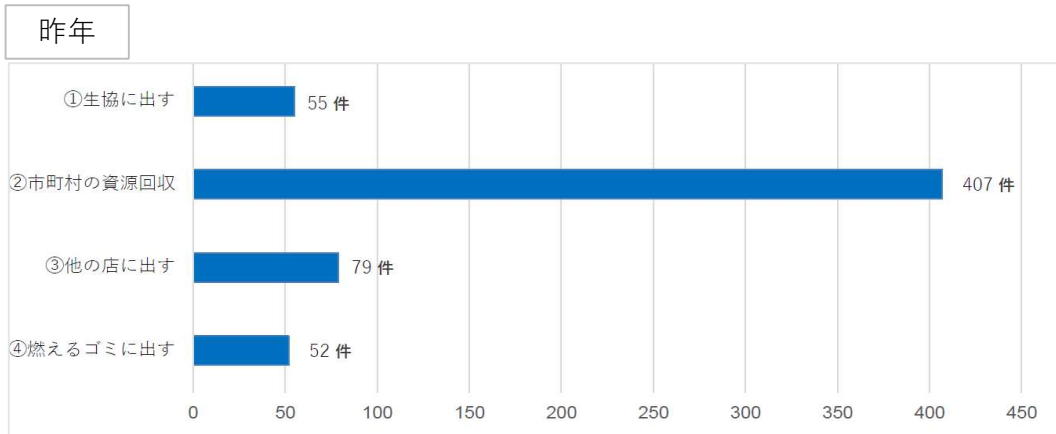


質問3.とやま生協がリサイクルで回収を行っているものについて、それぞれ当てはまる場所に○をつけてください。

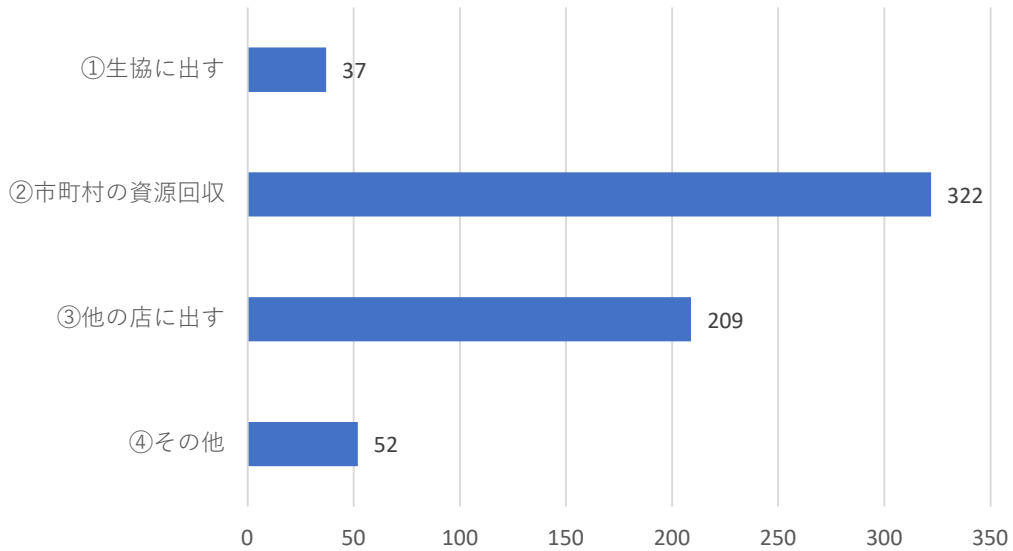
卵パック



昨年に比べ、卵パックを生協に出す件数が高まりました。メッセージカードで、リサイクル回収のお知らせ（年2回）をしていたことも関係あると考えます。

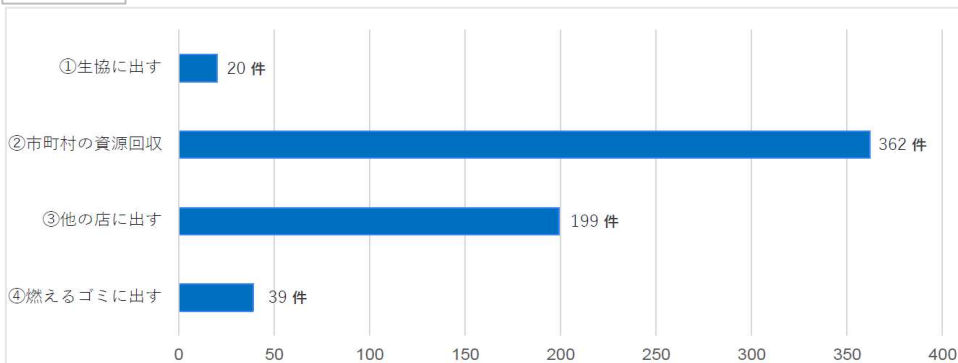


トレイ

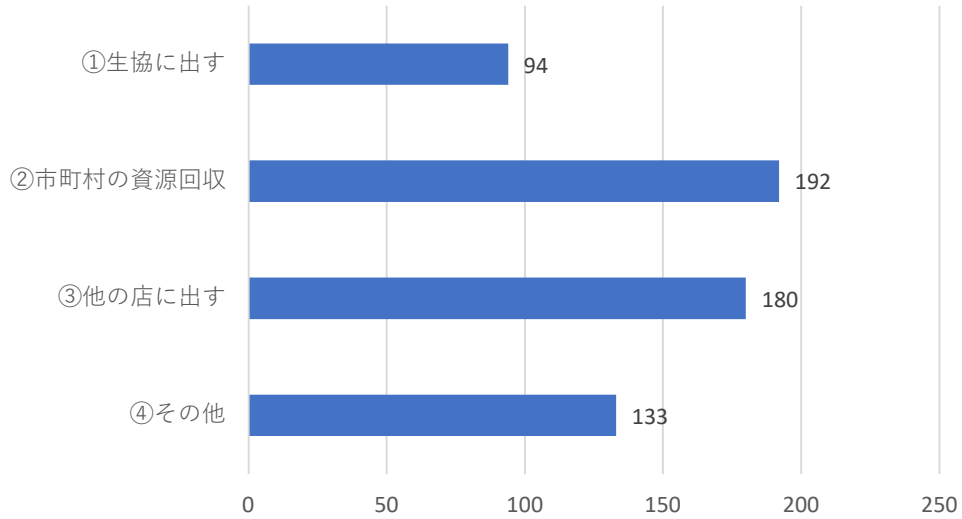


市町村の資源回収に出す件数に比べ、生協に出す件数が低い結果になりました。生協では、色付きトレイの提出はできないため、まとめて資源回収に持参していると考えます。

昨年

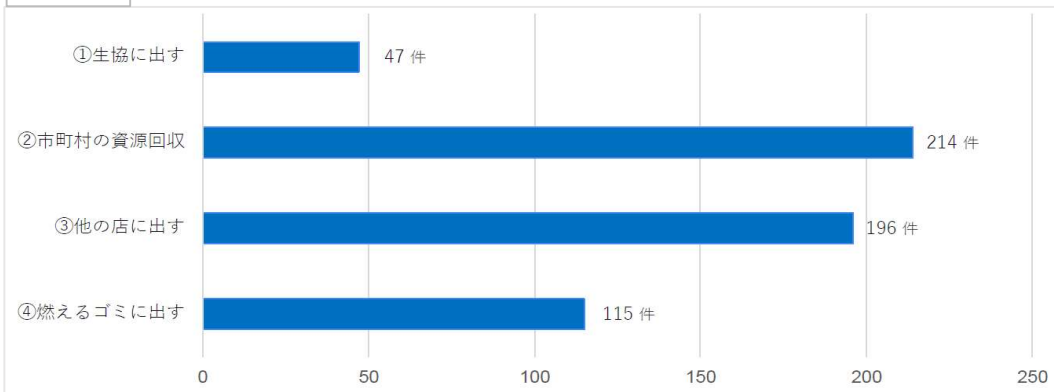


牛乳パック

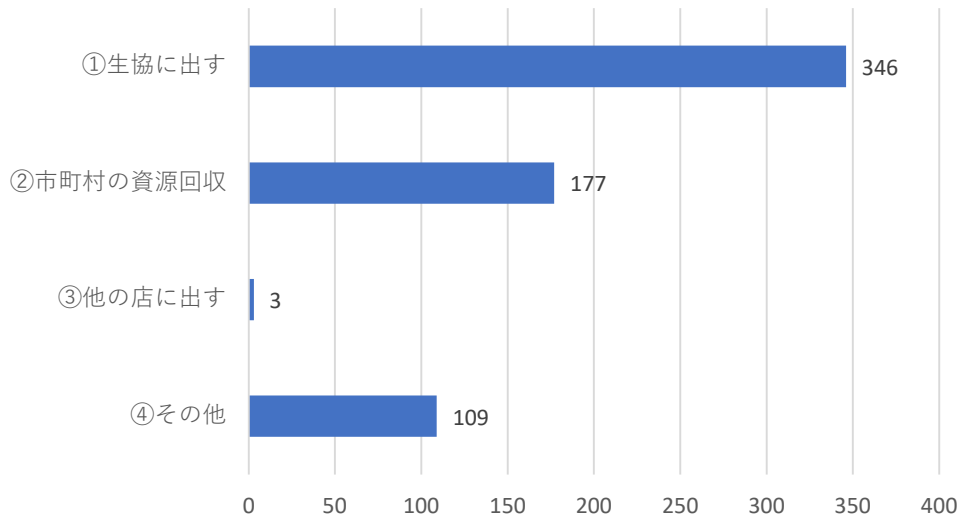


生協に出す件数が増えました。

昨年



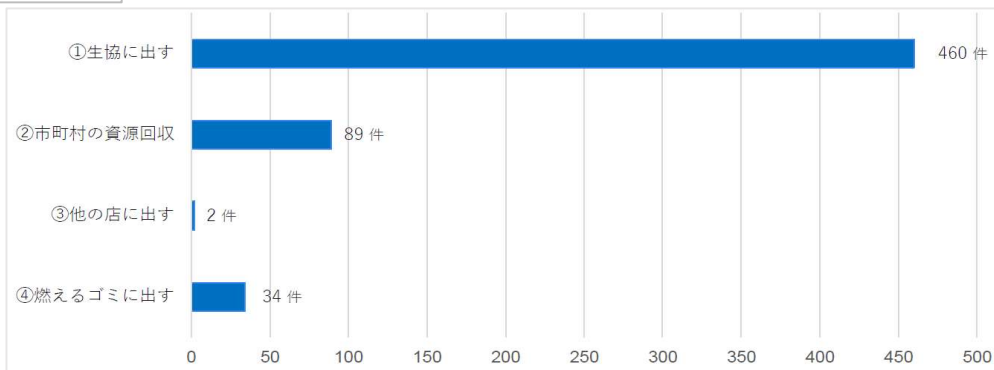
カタログを包む袋



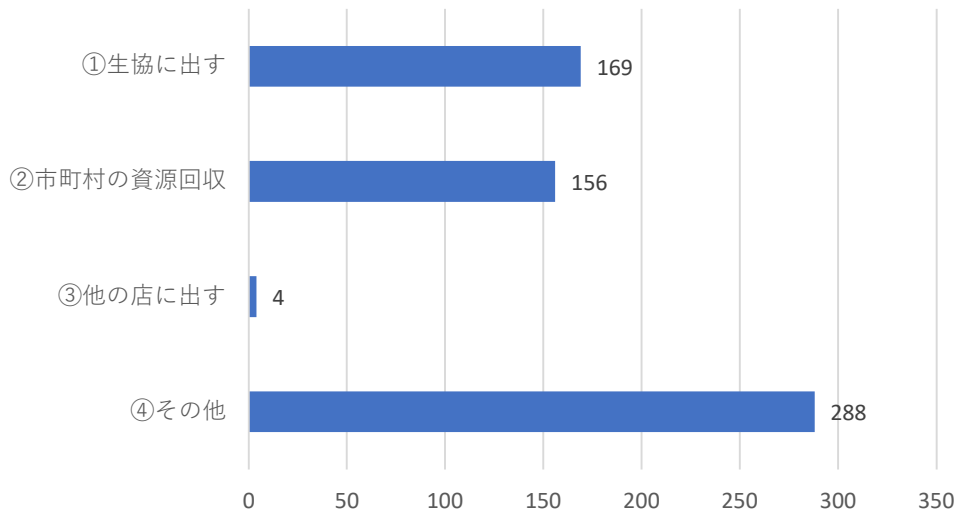
合併による生協に出す件数が減りました。

(参考：旧CO・OPとやまでは、カタログを包む袋の代わりに専用袋を使用)

昨年

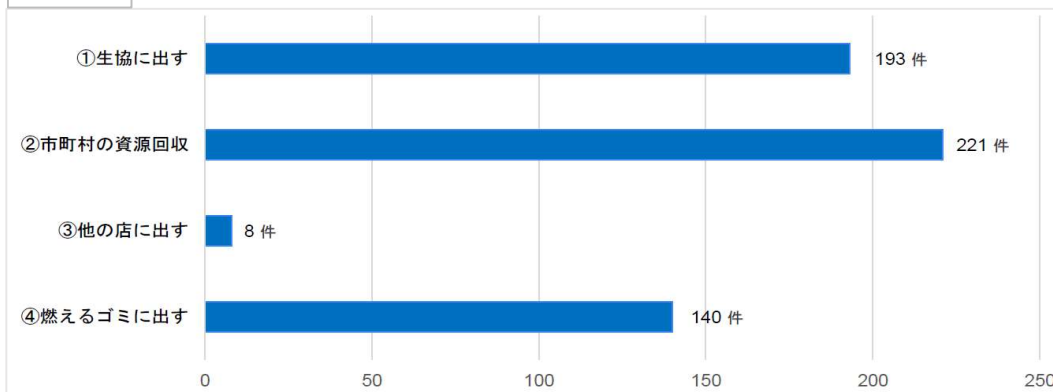


内袋（通い箱の中のナイロン袋）

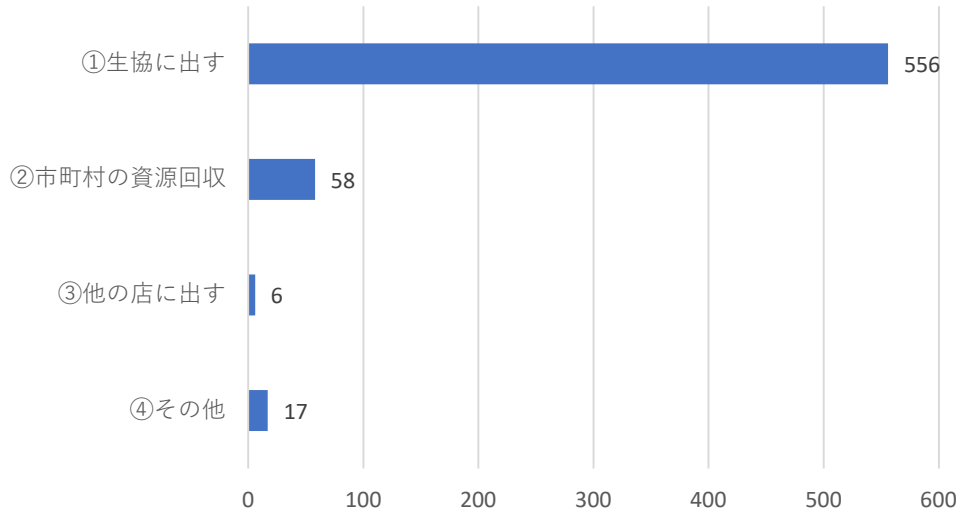


生協に出す件数が減り、その他が増えました。燃えるゴミに出す、また、家でゴミ袋として使う回答が多くありました。旧CO・OPとやまでは、内袋の回収がなく、内袋回収の認知度が低いと言えます。

昨年

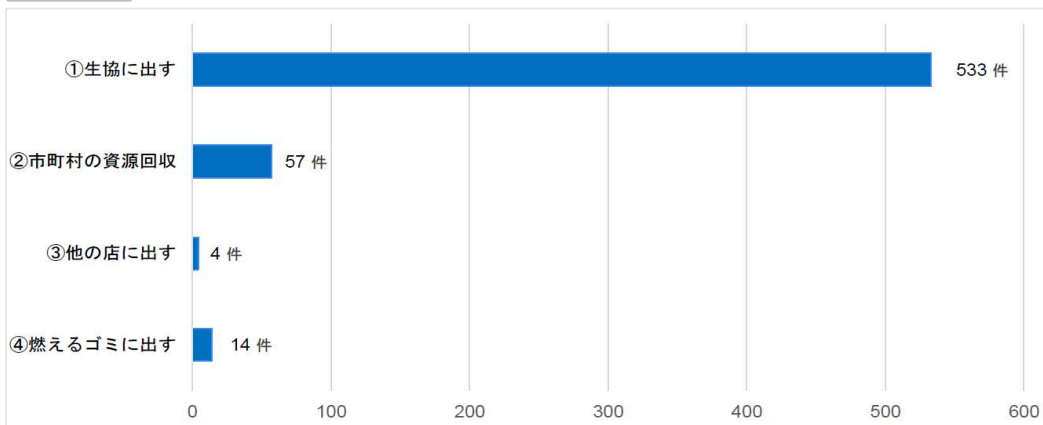


商品カタログ



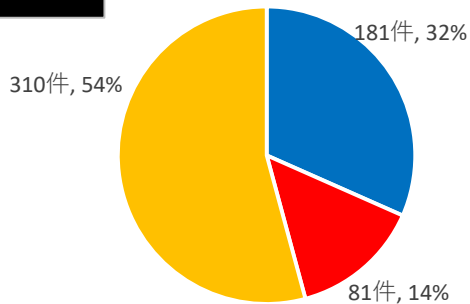
商品カタログを提出する件数が高く、定着していることが分かりました。

昨年

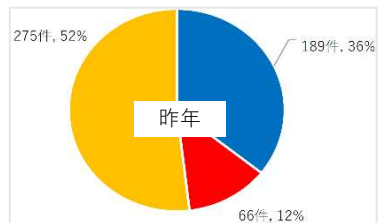


質問4.環境用語に関する言葉について、知っているものに○をつけてください。

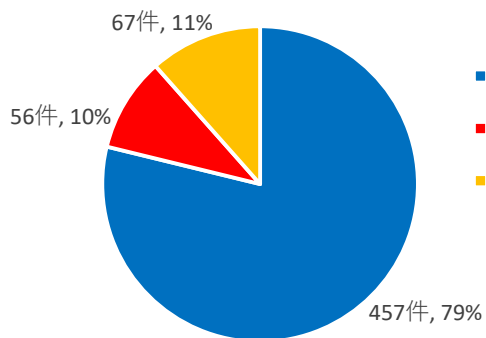
3R



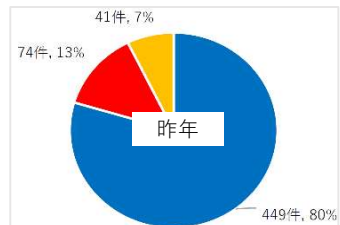
- ①言葉も意味も知っている
- ②言葉は知っているが意味は知らない
- ③言葉も意味も知らない



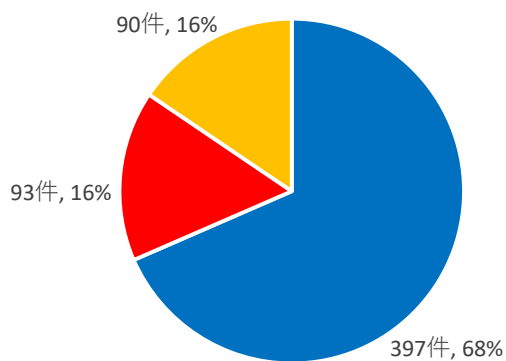
プラマーク



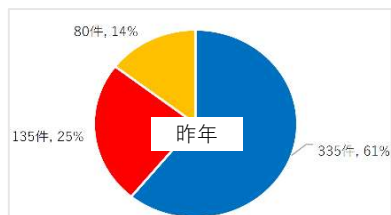
- ①言葉も意味も知っている
- ②言葉は知っているが意味は知らない
- ③言葉も意味も知らない



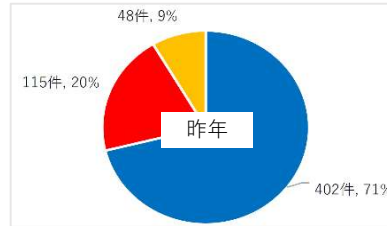
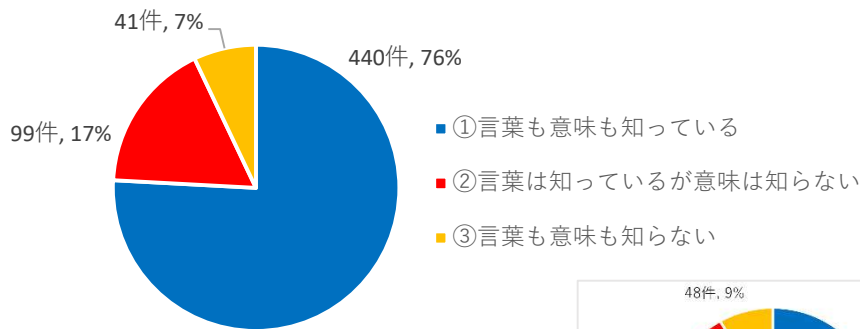
SDGs



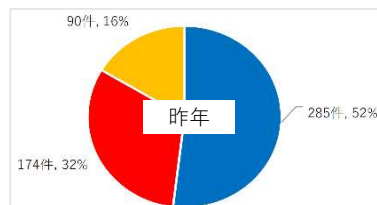
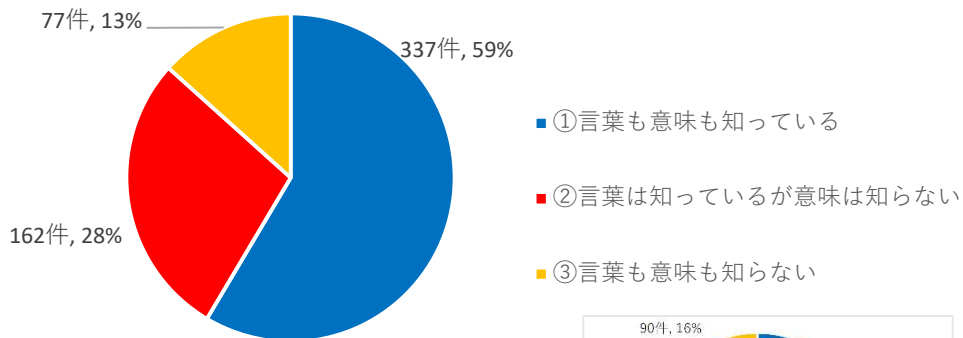
- ①言葉も意味も知っている
- ②言葉は知っているが意味は知らない
- ③言葉も意味も知らない



海洋プラスチック

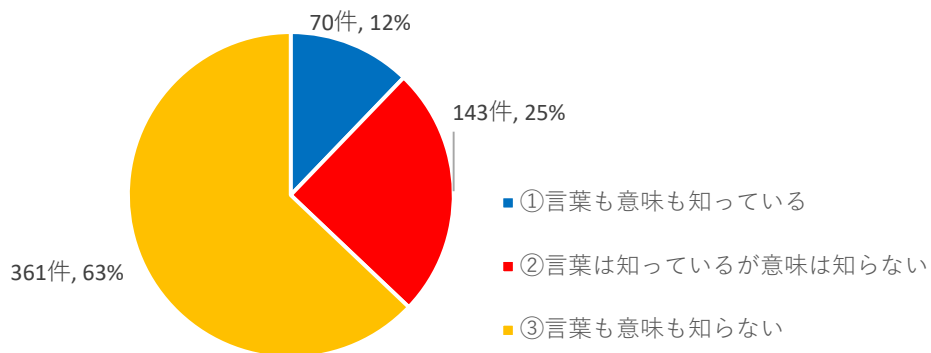


マイクロプラスチック



エシカル消費

※今回初調査のため昨年データなし



【振り返り】

《リサイクル回収》-----

どの項目も昨年と比べて大きな変化はありませんでした。

プラスチックごみの削減の取り組みの聞き取りでは、「マイバッグの持参」が90%を超えました。富山県では、全県単位では最も早く、2008年4月からスーパー等でのレジ袋無料配布廃止をスタートしています。そのような理由からマイバッグの持参、また、レジ袋をもらうのを断るなど、プラスチックごみ削減の取り組みが日常的になっていることが伺えました。

とやま生協のリサイクル回収は、「卵パック」を生協に出すが昨年に比べて65件増加し、また、「牛乳パック」は、昨年に比べて47件増加しました。メッセージカード（担当者ニュース）を使用し、リサイクル回収のお知らせを（年2回）したことが増加した理由として考えられます。「トレイ」では、市町村の資源回収に出すに比べ、生協に出す件数が低い結果になりました。生協では、（白）トレイ回収のみのため、市町村の資源回収やスーパー等へ出されていると推測します。合併により、変化があったのは、「カタログを包む袋」と、「内袋」です。旧CO・OPとやまでは、カタログを包む専用の通い袋を使用していたことや、内袋の回収がなかったことが理由としてあげられます。とやま生協のホームページや、メッセージカード（担当者ニュース）を使用し、今後も、お知らせを続ける必要性があります。「商品カタログ」は、生協に出す件数が高く、リサイクルが定着していることが分かりました。

今回調査するにあたり、合併によって、大きな変化があると予想しましたが、全体的に大きな変化はありませんでした。これは、メッセージカード（担当者ニュース）や、環境アンケートで、リサイクル回収のお知らせが広まったからだと考えます。今後も、リサイクル回収を広く継続的にお知らせすることが大切です。

《環境用語の認知度》-----

どの項目も昨年と比べて大きな変化はありませんでした。

富山県が実施した世論調査（第52回県政世論調査報告書R3.8月実施）によると、「SDGs」の言葉も意味も知っているが44.5%、SDGsを知っているが72%になっています。とやま生協では、「SDGs」の言葉も意味も知っているが68%、SDGsを知っているが84%でした。内容理解が高まった今、SDGsを実現するための行動が求められています。

電通が実施した一般調査（エシカル消費意識調査より※実施日2022年3月）より、「エシカル消費」の言葉も意味も知っているのは6%、エシカル消費を知っているのは41%、とやま生協は、「エシカル消費」の言葉も意味も知っているが12%、言葉を知っているが37%でした。言葉と意味を知っているが一般調査に比べて高いことが分かりました。環境や社会等に配慮した商品を選択することは、SDGs達成に向けて多くの課題解決につながると同時に、私たち、消費者・組合員ができる行動の一つです。エシカル消費の啓発は、SDGs達成に向けた手段として有効と言えます。

環境用語集（アンケート結果より）

3 R 3 R は Reduce（リデュース）、Reuse（リユース）、Recycle（リサイクル）の3つのRの総称のことです。

プラマーク プラスチック素材の容器包装品に表示が義務付けられている識別マークのことです。

SDGs 貧困、不平等・格差、気候変動による影響など、世界のさまざまな問題を根本的に解決し、すべての人たちに
にとってより良い世界をつくるために設定された、世界共通の17の目標のことです。

海洋プラスチック 普段の生活や経済活動から海に流れ着いたり、直接海や川に捨てられたりして、最終的に海洋を漂うプラスチックごみのことです。

マイクロプラスチック 海洋プラスチックが紫外線や波などによって打ち砕かれたりして、5mm以下にまで微細化したものです。

